

平成 21 年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	佐賀市立赤松小学校		
2 所在地	佐賀市中の館町 1 番 39 号		
3 校長名	鈴山 芳紹		
4 学級数 児童生徒数	21 学級 587 人	5 実施学年 児童生徒数	3 年 100 人 6 年 100 人
6 取組のねらい	}	以下、学年別に次ページ以降に記載	
7 取組の実際			
8 取組の成果と課題			

6 取組のねらい

3年生 単元名 「マイタウン赤松 ～赤松のやさしさを調べよう・伝えよう～」

体の不自由な方の体験をしたり、自分たちが住んでいる地域の「やさしさ(ユニバーサルデザイン)」について調べたりしたことを人々に知らせることで、赤松町のよさを感じることができる。

7 取組の実際

(1) 町の中のやさしさを見つけよう(町探検)

県や市の公共施設が多く集まる赤松町。1学期の町探検では、みんなが集まる施設について調べてきた。2学期は「町のやさしさを見つけよう」という大テーマで学習をすすめていった。はじめの町探検では、町のやさしさとして、車いすマークの駐車場やバスのベンチや屋根、車いすの人も使えるトイレ、公民館や美術館のスロープなどたくさんのやさしさを見つけ、疑問も生まれていた。

どうしてこんなに広いの？

車いすの人も使える電話だね！

車いすの人はどんなことで困っているのかな？



(2) 車いす・お年寄り体験・アイマスク体験をしよう。(クローバーの会の方に教えていただく)

段差があると大変だな。

急に引っ張られると怖いなあ・・・。



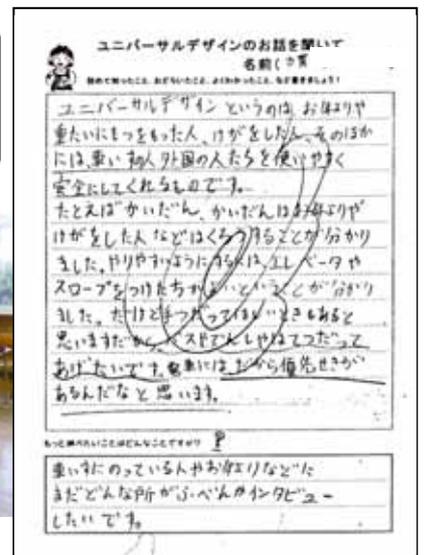
町探検で発見した車いすマークや点字ブロックなどをきっかけに、車いす体験・お年寄り疑似体験・アイマスク体験を行った。クローバーの会の方に指導をしていただきながら、車いすの乗り方や介助の仕方、おもりや曇った眼鏡をつけての作業などを行った。実際に体験したことで不自由さや怖さを実感していた。

*クローバーの会・・・社会福祉協議会より派遣された福祉体験指導者の方々

(3) ユニバーサルデザインについて知ろう！（県庁地域福祉課の江頭さんにお話をうかがう）

不自由な体験から、「すべての人が使いやすい工夫のことを何というか知ってる？」と問いかけ、ユニバーサルデザイン(以下 UD)につなげた。県庁の地域福祉課の方に来ていただき、町の様子(駅の様子、様々な施設、駐車場、絵文字など)やUDの食器など、写真や実物を交えながら話をいただいた。見たことがあるものや初めて見る物、初めて聞く言葉などもあり、とても興味深く話に聞き入っていた。町のUDについてもっと知りたい、調べてみたいという意欲をもつことができた。

パーキングパーミットの広い駐車場、近くのお店にもあったよ！どこにでもあるのかな？



(4) 町のユニバーサルデザインを見つけよう！（調べたいこと別のグループに分かれて調査する）

子どもたちが興味をもった学校の UD・公民館の UD・トイレ・駐車場・絵文字・自動販売機・盲人信号・点字ブロックのグループに分かれ、町の UD について調べる計画をたてて詳しく調べていった。地図に UD の駐車場や点字ブロックがある場所を記したり、実際に車いすに乗ってその便利さや不便さを体験したりしながら、それぞれの課題について調べていった。

子どもたちの課題

- ・ 学校にはどんな UD があるか調べる
- ・ 赤松小をもっと UD にするには
- ・ 公民館の UD について調べる
- ・ 赤松町で UD の駐車場があるところを調べる
- ・ UD のトイレはどんなものか調べる
- ・ 点字ブロックについて調べる（ある場所、種類、歴史など）
- ・ どんな絵文字があるか調べる
- ・ 音の鳴る信号機について調べる
- ・ UD の自動販売機について調べる



学校調査グループ



UD トイレグループ

(5) 調べたことをまとめよう

調べたことを学校公開で発表することを話し、たくさんの方に聞いていただくという目的意識をもたせて取り組ませた。応用紙や紙しばい、ペープサートなど、自分たちの表現しやすい表現方法でまとめさせる。地図にまとめていく中で、「なぜ盲人用信号は少ないのか？」「点字ブロックの形が違うのはなぜ？」とグループで考えるなど、更に深く追究していく様子が見られた。



応用紙にまとめる様子

(6) 調べたことを発表しよう！

学校公開の日に発表し、お世話になったクローバーの会の方や県庁の江頭さん、おうちの方や地域の方に調べたことを聞いていただく。大きな段ボールで実際に UD の自動販売機を作ったり、町の点字ブロックの上にゴミがおいてあるなどの困ったことを劇にして表現する工夫も見られた。

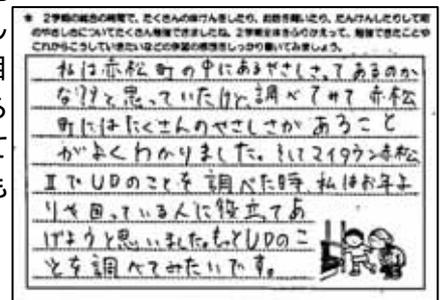


(7) 活動のまとめをしよう

これまでの活動を「できるようになったこと、自分や友だちの発表からわかったこと」などの観点から振り返らせた。「今まで意識していなかった UD を見つけることができるようになった」と見る目が育ってきたことや、様々な立場の人について考えることができるようになったという記述が多く見られた。また「お年寄りや困っている人の役に立ちたい」と思いやりの気もちが芽生えている記述も見られた。

点字ブロックの実演の様子

紙芝居にして発表する
児童のふり返し



8 成果と課題(… 成果 … 課題)

これまであまり気にとめていなかったユニバーサルデザインが身近なところにもあることに気づき、関心をもって生活するようになった。

様々な人の立場にたって調べたり考えたりしたことで、思いやりの気もちが育ってきた。

調査の際に、実際に困っている方といっしょに調査するなど、生の言葉があれば更に深まりのある学習になったのではないかと考える。

6 取組のねらい

6年生 単元名 「思いやりのまちをめざして ～ユニバーサルデザインを考えよう～」

みんなが使うものを、みんなが使いやすいように考えてデザインする「ユニバーサルデザイン(UD)」の考え方を理解し、自分なりにデザインを考えることによって、相手を尊重する意識や思いやりの心を育む。

7 取組の実際

(1) ユニバーサルデザイン(以下 UD)とはどんなものだろう(2時間)

- 話を聞き、UDとして作られたものを実際に触ってみる

UDとはどんなものか知るために県庁地域福祉課の方に来ていただき話を聞いた。UDとは何か、身の周りの施設や道具でUDにはどんなものがあるか、UDの原則などについて写真や実物を示しながら話していただいた。また、皿、おわん、将棋板などの道具を実際に触る体験もした。興味を持って話を聞き、UDを探したり、自分たちでデザインを考えたりしてみたいという意欲を持つことができた。



(2) 校内やまちのUDをさがして、どんな工夫があるか調べよう(4時間)

- 校内のUD

校内にもUDの設備があることに気づいた児童がいたことから、学校のUDを探すことにした。玄関のスロープ、階段の手すり・滑り止め、低学年の黒板、図書室の本棚などたくさん探すことができた。低学年でも使いやすい・わかりやすいというものが多いことに気づいた。また、トイレ・禁煙・非常口などのピクトグラム存在にも気づいていた。

- 地域のUD

次に、学校の近くの地域のUD調べをした。赤松校区にはいくつかの公共施設があり、施設内だけでなく町にもUDがたくさんある。県庁、佐賀城本丸歴史館などの施設およびその周辺を回って調べた。この活動は、自分たちがUDを考える際のヒントになるということで意欲を持たせるとともに、調べる際に、探すだけでなく、誰のためのどんな工夫がされているかも考えさせた。

学校のユニバーサルデザインをさがそう

みんなが使うもので、みんなが使いやすいように考えてデザインしてあるものを探そう

場所	施設や物	どんな工夫
図書室	絵本の架台	例) 強か、ソフト時に読めるか 低い
階段	手すり	背くや足こしが悪い人が階段をのぼるとき
教室	手洗場	1・2年・3・4年・5・6年の手洗いは高の身長に合わせて調節されている。
音楽室	ドア	大きな楽器を運びやすいように、ドアが2つとも開くようになっている。
職員室	窓	生徒の様子かわかるように、窓がたくさんある。(先生か)
トイレ	トイレ	低学年の人をトイレにする時に、扉が閉まるまで待つ人がいる。扉が閉まるまで待つ人がいる。
給食室	ドア	給食のおぼろが出入りしやすいように、扉のデザインがされている。
わたりがら	中庭のわたりがら	おぼろの時に、低学年の子がわたりがらを歩いているように、スロープになっている。
給食をとりとる	このたか	1年・2年・3年...のように、身長に合わせて高になっている。

(3) みんなが使いやすいUDアイデア作品を考えよう (3時間)



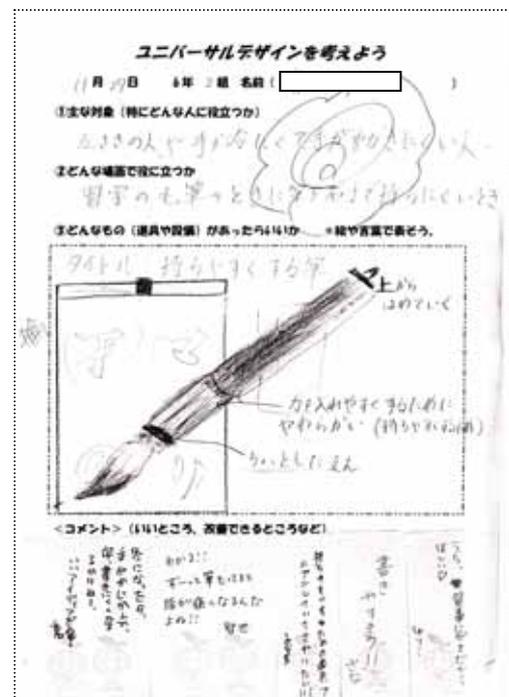
- ・ 不便なことを探す(だれにとって、どんなことが)
- ・ UDのアイデアを考える
- ・ 講師の方にアドバイスを受けながら、アイデアをポスターにまとめる

UDアイデア作品を考える前に、UDの必要性を考えさせるために、誰にとってどんなことが不便か考えさせる活動を行った(例えば、車椅子の人は学校の階段を登るのが大変)。そして、それを解決するための自分なりのアイデアとしてのUDを考えさせた。デザインを考える際に、西九州大学の作業療学の2名の先生とリフォーム会社の2名の方にきていただいてアドバイスをしてもらった。

(4) アイデア作品発表会をして、コンクールに応募しよう(3時間)

- ・ ポスターをお互いに見て、いいところ、改善すべき点をコメントし合う
- ・ コンクールに向けて、ポスターを完成させる
- ・ まとめ

それぞれの児童が自分なりの発想で考えており、友だちの作品のいいところも発表することができた。児童の中には、数十年後の未来においては実現可能かもしれないような高度な技術のアイデアを出した子もいたが、より現実的に今の技術において実現できそうなものに改善したほうがよいという意見も出ていた。友だちの意見も参考にして、大きい用紙にデザインを書いて完成させた。児童全員の作品を佐賀県こどもUDコンクールに応募した。



8 成果と課題 (...成果 ...課題)

UDについて調べたり、みんなが使いやすいようにデザインを考えたりしたことで相手の立場を考える思いやりの気持ちが育ってきた。

学校や地域の施設など身近なところにUDがあることに気づき、人にやさしい街づくりに関心を持って生活するようになった。

3年生の時に学習している「マイタウン赤松(福祉)」の内容を振り返らせたり、車いすやお年寄りの体験をしたりしてからUDの学習に入っていけば、さらに深まりのある学習になったのではないかと考える。